

## 今号のコンテンツ

- 2022 年度事業計画
- 第 4 回専門医認定試験の実施について
- 第 2 回社会部会若手リトリート 2022 のご報告
- 第 60 回日本医療・病院管理学会のご報告
- 第 32 回日本産業衛生学会全国協議会のご報告
- 公衆衛生ウィンターセミナー 2022 (PHWS2022) のお知らせ
- 事務局からの連絡

## 2022 年度事業計画

社会医学系専門医協会理事（広報担当）

和田裕雄・小橋 元

2022 年度の第六期事業計画についてご報告いたします。

### 【期間】

2022 年(令和 4 年) 7 月 1 日から 2023 年(令和 5 年) 6 月 30 日

### 【事業計画】

#### 1. 社会医学系の専門医、指導医の育成と生涯学習に関する事業

各学会・団体で年 1 回程度、指導医講習会の開催いたします。

統括責任者連絡会議、必修共通科目(安全・感染対策・倫理)、更新研修会を開催し、eラーニングの活用と運営を促進していきます。また状況にあわせ基本プログラム講習会を計画していきます。

#### 2. 社会医学系専門医、指導医の認定に関する事業

専門医・指導医認定委員会を 5 回計画しています。

専門医・指導医の認定・登録、認定証の交付や専門医認定試験の実施と運営を行い、試験分科会を 4 回開催いたします。第 5 回専門医認定試験は 2023 年 9 月に実施を予定しています。

専門医・指導医資格更新基準の理解の普及と専門医・指導医の追加認定基準に関する検討と制度化を目指し、社会医学系専門医制度に関する今後の方針に関する提案をしていきます。特に、特例措置指導医の要件をベースにシニア世代向け専門医・指導医資格付与資格対象の拡大やミドル世代向けに受験資格の拡充していく予定です。

標榜できる専門医、法的に位置づけのある専門医（研修プログラム変更等に厚労大臣の許可が必要）となることを目指し活動していきます。

#### 3. 専門研修プログラムと研修施設の認定に関する事業

研修プログラム認定委員会の開催および登録申請受付、認定、登録や全国の研修プログラムの質管理、基本プログラム相当の講義等の新規認定、維持・更新を支援します。

#### 4. 社会医学系専門医制度の評価と発展に関する事業

企画調整委員会を4回程度開催し、広報や日本内科学会等との連携の検討をしていきます。また社会医学系の医師人材の確保・育成の促進に向け、専門医・指導医に関するデータおよびそれを用いた研究をすすめてまいります。その他、当制度のレビューと維持・発展に関する検討をしていきます。

#### 5. 社会医学系専門医の普及及び啓発に関する事業

ニュースレターを年4回発行予定です。専攻医・専門医・指導医あてに重要なお知らせは適時メルマガで配信をしていきます。ホームページの更新を随時行い、会員が使いやすいものを目指します。広報に関する事項や当協会の役割についての更なる検討を重ね、一般の人々も含めた公衆衛生の普及、社会医学系の医師の確保の推進などを目指し活動します。

#### 6. 法人運営のための事業

定時社員総会を2022(令和4)年9月19日に開催、臨時社員総会は理事の交代の承認などで随時開催していきます。理事会は年3回の開催を予定し、定時社員総会の前は決算、2023(令和5)年3月頃に協会運営に関する事項の検討、同年6月頃に事業計画、収支予算等を予定しております。業務執行理事会は各総会・理事会前に随時開催予定です。また事務局業務の効率化を検討しており、事務局機能の管理、業務の効率化・システム化をすすめてまいります。

### 第4回専門医認定試験の実施について

業務執行理事・専門医・指導医認定委員会会長 前田光哉 (国立病院機構)  
 業務執行理事・試験分科会長 大神 明 (産業医科大学)

第4回社会医学系専門医認定試験が、日本医師会館を本部として9月11日(日)に開催されましたのでご報告いたします。今回の受験者は58名でした。全員Web方式で実施されました。表1に受験生の内訳を示します。

表1 受験生の内訳：主分野と主たる所属

主分野	所属					計
	行政	職域	教育研究 機関	医療機関	その他 <sup>(※)</sup>	
行政・地域	18	0	6	3	0	27
産業・環境	0	12	1	2	1	16
医療	2	1	9	2	1	15
計	20	13	16	7	2	58

(※) 所属の「その他」は刑務所1名、育休中1名。

試験当日の実施体制についてですが、10時から統括・オリエンテーションから始まり、1時間の筆記試験を午前中に行いました。この試験は第2回以降同様の形式ですが、今回はAI機能による監視を行いました。午後からは面接試験(1名10分)と1グループ8名によるグループワーク試験(60分)を行いました。グループワークの課題は、「社会医学系専門医から見た新型コロナウイルスおよび未知の感染症対策のあり方」としました。

合否判定会議は試験終了後直ちに行われ、結果は合格 57 名、不合格 1 名でした。

今回は、筆記試験の不正検出のため、(株) CBT ソリューションズ (Internet Based Testing システムの受託業者) が提供する AI (人工知能) 機能を用いた監視システムを採用しました。その結果、不正が疑われる事例は認められませんでした。

Web 形式で実施したことで見えてきた課題ですが、Web に接続出来たかということについて、筆記試験では今回ほぼスムーズに接続が行われ、10 時 30 分の定刻に筆記試験を開始することができました。また、面接試験やグループ討議での Web 接続での回線接続については、面接時に回線が切れて全く面接できない事例や、面接中に回線がフリーズした事例がありました。これらについては、中間の休み時間を利用して再面接を行うことや、再度アクセスして面接を再開するなどして何とか試験を完遂しました。交通費を節約する上では Web 方式は有用ですが、通信環境の課題は今後の検討課題です。

今回、AI を用いた監視を実施しましたが、AI での監視により、手で顔を覆ったり (頬杖など)、眼鏡を外したりの動作でも「最初に撮影した正面の写真と異なる」との判断で「問題あり」となってしまい、全受験者に要確認箇所ありという結果になっていました。これについて見直した限りでは、特に不正と疑われる事例はありませんでした。カメラの角度によって、顔の全体が映らなかった受験者は、一番チェック箇所が多かったようです。次年度も同様に AI 監視とする場合、カメラの角度などの注意も必要と考えられます。また、手元が隠れているので、カメラの映らない所はチェックしきれませんが、それについては、目視であっても同様かとも思われます。

第 5 回専門医認定試験は、2023 年 9 月 3 日 (日) を予定しています。試験は、過去 3 回は全面 Web 形式でしたが、開催方式はコロナ禍の状況次第で検討し、また受験者数などで変更になる場合があります。今回も多数の試験委員の先生方に、出題や試験官などご協力頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

#### 【第 4 回社会医学系専門医認定試験合格者一覧】

土田哲也	世古口真吾	室井 慧	佐藤 明	児玉佳奈	吉田真也
加藤裕一	藤井浩太郎	赤松友梨	西 健斗	市川祐香	中村太志
市川理恵	松浦知香	藤田悠介	高屋雅彦	有賀 駿	鮫島祐子
中西浩之	田中里穂	水野佳世子	直野慶子	北村知穂	工藤 静
岡本昭夫	大野吉史	澁谷 亮	松原優里	朱 祐珍	清水元気
野呂優樹	田邊 裕	石井加奈子	寶珠山夏子	大脇五鈴	堤 育代
孫 瑜	藤井俊吾	清水崇弘	蜂須賀陸	山崎 大	成田智晴
藤本亜弓	大貫慧介	糸島 尚	原 拓也	藤本俊樹	馬場宏佳
高田 碧	宮田明未	吉井史歩	小佐見光樹	木村竜太	古澤 弥
坂元昭裕	梶永 萌	才津旭弘			



## 「第2回社会部会若手リトリート 2022」のご報告

社会部会リトリート実行委員会委員長  
 京都大学医学研究科  
 原田 浩二

日本医学会連合は全国の医学学会の連合体で、基礎部門（14学会）、臨床部門（108学会）、社会部門（19学会）、の計141学会（2022年10月時点）から成っています。日本医学会連合では、若手研究者の育成とキャリア形成の充実に取り組んできており、その一つに、リトリート活動があります。2019年に基礎部会、2021年に社会部会のリトリートを行ってきました。今回、第2回社会部会若手リトリートを8月25日、26日に、大阪梅田においてハイブリッド開催しました。開催テーマは「社会医学の課題と解決に向けた連携のあり方：未来につながるキャリア」で、社会部会16学会、また臨床内科部会、臨床外科部会から推薦を受けた49名（内オンライン参加9名）が参加しました。

プログラムは参加者によるグループワークを中心として、1日目は参加者同士で、各自の所属する学会や研究内容等について理解し、「社会医学の課題と解決に向けた連携のあり方」についてディスカッションし、その後、基調講演を京都大学の今中雄一先生、獨協医科大学の小橋元先生からいただきました。2日目は参加者が自身のキャリアについて振り返り、そのターニングポイントや課題にどのように向き合ってきたのか、その際の学会や所属機関からの支援の実例を共有する機会としました。

参加後のアンケートでいただいた声をいくつか紹介します。

- ・ 各学会での組織運営のカラーや、若手支援体制があることを知ると共に、分野は違っていても共通の悩み・課題があるという事自体を知れてよかった。
- ・ 抱えている課題については共通するところが多かった。また、全く違う研究テーマを持つ人もいて、非常に刺激を受けた。自分の抱えている課題が今すぐに解決されるわけではないが、心の余裕ができたように思う。
- ・ コロナ禍で研究がなかなか進まなかったが、ヒントが得られた。また、研究モチベーションが高まった。いろんな職種、職位の先生方との交流が出来て、視野が広まった。
- ・ 臨床との連携については課題であるが、臨床からのニーズに応える方向性を模索したいと強く感じた。学会ごとに若手やキャリア形成を取り巻く状況が大きく異なることに気付くことができた。今回の発見を新たに学会に入会する若手にも共有したい。

このように限られた時間でありましたが、リトリートという交流の機会が、参加者にとって、見聞、つながりを広げることに繋がったと考えます。キャリア形成において臨床と社会医学の両立、支援制度の要望もあり、社会医学系専門医制度が重要な位置づけとなることが期待されます。



参加者の集合写真

## 「第 60 回日本医療・病院管理学会学術総会」のご報告

岡山大学医学部保健学科教授  
齋藤 信也

第 60 回の日本医療・病院管理学会学術総会は、オンライン形式で 2022 年 9 月 16 日（金）から 18 日（日）までの 3 日間開催されました。新型コロナウイルス感染症の第 7 波も収束に向かい、現地開催の学会も増えている中でのオンライン開催は賛否両論ありましたが、社会医学専門医の資格取得や更新に必要な単位の取得が容易となるという利点があることは間違いありません。これは単に現地に赴かなくても済むという話にとどまらず、録画したコンテンツを学会 HP 上で公開することにより、忙しい医師たちが自分の都合のつく時間に視聴できること、および繰り返し可能なことから、学習効果も高まるという面があると考えられます。

本学会は、医療管理・病院管理に関係する諸領域をすべてカバーするという間口の広い性格があり、今回の学術総会でも、その網羅性がいかんなく発揮されたと自負しています。特にテーマとして「これからの医療・病院管理～コロナ禍を経験して」と掲げたように、我が国の医療システム、病院マネジメントにコロナが与えた影響をとりあえず総括するには良いタイミングだったと思われます。このメインテーマにつきましては、シンポジウムと特別講演を設けたほかに、コロナの第一線でこれに対峙した公的病院の管理者による教育講演や保健所長会とのコラボ企画、看護管理者による招待講演も行いました。また国立病院機構をはじめとする各チェーン病院の果たした役割の報告に加え、経営学の観点からの組織戦略や具体的なケースに基づくケースメソッドも好評でした。またコロナとは直接関係ないものの、どの病院もその潜在的危機に瀕しているランサムウェア攻撃について、実際にそれを体験した公立病院からの報告はリアリティに富んでおり、参加者に与えた示唆は大きいものでありました。

これらの各セッションの多くは、専門医制度の K 単位として認められているほかに、学会で準備した各委員会企画もそれぞれ共通単位（感染対策、医療倫理、医療安全）になっています。これに加えて指導医講習会も多くの参加者を得て行われました。

今回の学術総会は、これまでの総会に倣い社会医学専門医制度をサポートするようなプログラム構成になっていたと考えていますが、専門医の先生方あるいは専門医を目指している先生方から見て、どのような評価だったのでしょうか。それなりの合格点をいただけたことを願っております。

## 「第32回日本産業衛生学会全国協議会」のご報告

運営実行委員長

公益財団法人 北海道労働保健管理協会

原 俊之

秋晴れ、落ち葉舞う中、新型コロナウイルス流行第7波の減少と台風連発の動向も睨みつつ、以下の通りハイブリッド開催いたしました。札幌開催は12年ぶりです。

テーマ：連携と協働 一職種、組織の壁を越えて—

会期：2022年9月29日（木）～10月1日（土）（現地会場およびライブ配信）

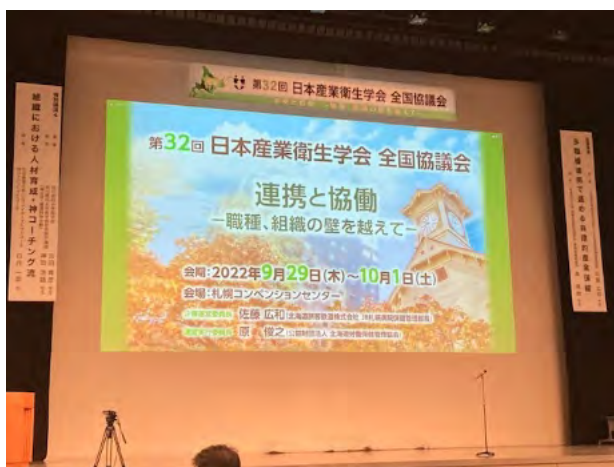
2022年10月11日（火）～10月30日（日）（オンデマンド配信）

会場：札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）

参加者：1929名（現地1141名、オンライン788名：2022年10月31日確定）

参加登録、ランチョンセミナーは事前にオンライン申込み、167題の一般演題発表もオンデマンド配信とし、事前に座長を選任、閲覧者からの質問投稿を受けての質疑応答、そして各会場の入退場規制などできる限りの感染予防対策を図り、実地研修も含めて現地開催を無事に終えることができました。

本協議会も、日本医師会認定産業医、産業保健看護専門家制度の単位と共に、社会医学系専門医制度の単位付与講習である必修プログラム共通講習、指導医講習、選択講習すべてを企画し、西浦博教授（COVID-19対策の数値モデル活用）をはじめ、災害産業保健、化学物質管理などのトップランナーの講師をお招きしました。また「専門医育成のための連携と協働」のシンポジウムでは、わが「北海道研修プログラム」委員からの救急専門医、「かながわプログラム」の立道昌幸教授、さらにスペシャルゲストとして専攻医からの指定発言も受けて、林朝茂協会理事の座長ご進行により、課題の共有と今後の連携・協働の意思統一があらためて図られたことも、大きな収穫でした。





## 公衆衛生ウィンターセミナー2022 (PHWS2022) のお知らせ

社会医学系専門医制度の専攻医同士のオンラインで交流を図ったり、管内医療機関と保健所の協力体制の構築など、必要なコンピテンシーを学んだりするためのミニ勉強会を兼ねたオンラインセミナーとして、公衆衛生ウィンターセミナー2022 (PHWS2022 : Public Health Winter Seminar 2022) を開催します。専攻医の方々のご参加をお待ちしています。

日時 2022年12月17日(土) 13:30 ~ 16:30

主催 全国保健所長会/日本公衆衛生協会

### プログラム

#### ○オンラインセミナー

- (1) 管内医療機関と保健所の協力体制の構築
- (2) 専門医体験談と情報提供
- (3) 専門医制度の誕生秘話

#### ○オンライン懇親会

セミナー後~17:00 まで仲間と語らう懇親会

申込締切 11月26日(土) 先着30名

参加申し込みはこちらから

[http://www.phcd.jp/02/j\\_senmoni/pdf/phws\\_2022.pdf](http://www.phcd.jp/02/j_senmoni/pdf/phws_2022.pdf)



社会医学系専門医研修プログラム 専攻医のための  
**WINTER SEMINAR**  
 公衆衛生ウィンターセミナー 2022

専攻医のあなたに、とっておきのセミナーをプレゼント。

2022年12月17日(土) 13:30-16:30

オンラインセミナー  
 1. 管内医療機関と保健所の協力体制の構築  
 2. 専門医体験談と情報提供  
 3. 専門医制度の誕生秘話

オンライン懇親会  
 セミナー後~17:00まで 仲間と語らう懇親会

申込締切  
 11月26日(土) 先着30名

参加申込はこちら

詳しくは [全国保健所長会](#) 検索

**主催** 全国保健所長会/日本公衆衛生協会  
 令和4年度厚生労働省地域保健総合推進事業  
 「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践活動」事業班  
 分担事業者 横山勝教(香川県東讃保健所)

**問合せ** 運営委員長 早川貴裕 (栃木県保健福祉部医療政策課)  
 事務局 日本公衆衛生協会 若井・斉藤  
 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-8  
 TEL: 03-3352-4284 FAX: 03-3352-4605 E-mail: entry\_phcd@gmail.com

## 事務局からのお知らせ

### 【会員専用ページをご確認ください】

会員専用ページが開設いたしました。

会員専用ページ：<http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/memberpage/>

会員専用ページにログイン後、年間登録料の納入状況の照会、住所・所属先等の登録情報更新が可能です。

転居・異動等の際は会員専用ページにアクセスし情報の更新をお願いいたします。

(※ログイン ID は年間登録料請求書に記載されております。)

(※PW は各自 Web 上よりお問い合わせください。事務局ではお調べできません。)

<ログイン ID 問い合わせ、請求書、領収書発行依頼先>

社会医学系専門医協会 事務局

E-mail：[jbphsm@asas-mail.jp](mailto:jbphsm@asas-mail.jp) (件名に「〇〇依頼」とご記載ください。)

FAX：03-5981-6012

### 【社会医学系専門医・指導医 認定更新に関して】

【2022 年度版】専門医・指導医の更新について（更新手続き・今後のスケジュールのご案内）が公開されております。

<http://shakai-senmon-i.umin.jp/news/2527/>

今年度は昨年度から提出する書類の様式が変更になっております。昨年度更新を延長されている方も新しい書式での提出となります。

<更新に関するお問い合わせ先>

社会医学系専門医協会 事務局

E-mail：[jbphsm@asas-mail.jp](mailto:jbphsm@asas-mail.jp) (件名に「22 年度更新について」とご記載ください。)

FAX：03-5981-6012

※ご質問の内容によっては認定委員会で審議されますのでお時間を頂戴する場合がございます。